

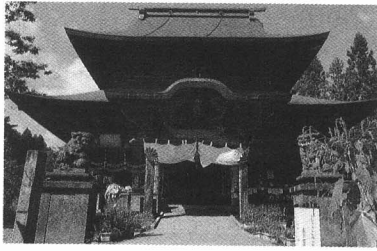
国重要文化財

弘安寺銅造十一面観音・脇侍不動明王・地藏菩薩立像・旧観音堂厨子

大沼郡佐布川村（現会津高田町）に江川常俊という豪農が住んでいた。多くの土地・山林を持ち何不自由ない生活であったが子宝に恵まれなかった。当時会津の霊場である雀林法用寺の十一面観音に祈願し、一人の女子をもうけた。文永十年（一二七三）十七才の春病に罹り看病のかいも無く黄泉の客となった。夫婦は娘の菩提を弔う為に、この三尊を鑄造した。この三尊共に鎌倉時代の鑄造として、東北地方に於ても珍しい像であるといわれる。

旧観音堂厨子は、現在弁財天を祀り、弁天堂と呼ばれているこの堂は、かつて弘安寺の三尊を奉祀した厨子である。

唐様式で、本尊が鑄造された文永十一年（一二七四）頃造られたものと見られ、会津に於ける鎌倉期の古い建築として貴重である。



弘安寺



弘安寺奥院

米よね 沢ざわ（米田乙）

村の西に米沢という山沢があるための村名と言われる。

「会津風土記・高田組郷村満改帳」に……當村ヲ米沢村ト名ケタル由緒ヲ尋ルニ不分明此村ノ西ニ山沢有り。是ヲ米沢ト云、故此字ヲ村之名ニ呼乎……

屋や 敷しき

米沢集落由来の屋敷の跡と云われる。

宮みや 東ひがし

伊佐須美神社の東、集落一部を云う。

澤さわ 北きた

集落中央が沢であったことから北が沢北と名付けられた。

富とみ 塚づか

富塚屋敷有り根岸中田観音との由来あり。

●遺跡 富塚屋敷遺跡 縄文・平安・奈良時期・根岸中田館主・富塚伊賀守盛勝の屋敷跡 昭和六十年試掘

南みなみ 澤さわ 中なか

中央部分を沢中とし、南にも沢有り、山中堤下方に沢南の地名有り。